ヴェルディ・オペラ第15作目「ルイーザ・ミッレルLuisa Miller」

「ルイーザ・ミッレル」は1849年12月8日ナポリ・サンカルロ歌劇場で初演された。

台本は「アルツィーラ」「レニャーノの戦い」そして「イル・トロヴァトーレ」を描いたロマン溢れる作品が多いサルヴァトーレ・カンマラーノであり、オペラの形式は悲劇的メロドラマである。人間の心理状態を表現しロマン的な作風に。そして人生の大きな転換期に入っていく。ヴェルディとストレッポーニは長い同棲生活ではあるがお互い伴侶として確信してゆく。1849年7月パリ１６区パッシーでの生活に見切りをつけ、ブッセートの邸宅へ引っ越した。

会報「Lirica」に毎回載せている「ヴェルディのオペラ作曲」を見れば、直ぐに気が付くことだが前半１４曲の作曲期間が１０年も経っていない事がわかる。そして後半の１４曲を見ると４４年の歳月が費やされている。・・・・

ヴェルディ、S・カンマラーノによる「ルイーザ・ミッレル」主な登場人物

ルイーザ・・・・・純情な村娘でミッレルの娘であり、ロドルフォと相思相愛の仲

ミッレル・・・・・退役軍人で名誉を重んじる、ルイーザの父親。娘よ！その恋の相手が身分不相応な方でなければよいが・・・心配でならない。この心配事が、ウルムによって現実のものとなる。神よ・・娘が清い体のままであります事を・・・

ロドルフォ・・・・カルロ。実はヴァルテル伯爵の子息でロドルフォである。ルイーザと相思相愛の仲である。身分違いの結婚が悲劇を生む。

ヴァルテル伯爵・・チロル地方の領主。息子には深い愛情を持っているが当時の貴族社会の封建的な常識が親子の関係、領民との関係において齟齬をきたす。

ウルム・・・・・・ヴァルテル伯爵の秘書官であり、トラブル・メーカーで悪人。第１幕第１場ミッレルへ。一年前わしがあんたに娘さんをもらいたいと言った時、あんたは嫌とは言わなんだ・・・そして又、あんた方のお気に入りの若者はなぁ、聞いて驚くな、ヴァルテル伯爵のご子息様じゃ！

フェデリーカ・・・オストハイム公爵夫人で、公爵の死後未亡人となっている。ロドルフォとは幼馴染で、彼を慕っている。父親ヴァルテル伯爵は息子ロドルフォに結婚するよう命ずるが・・・